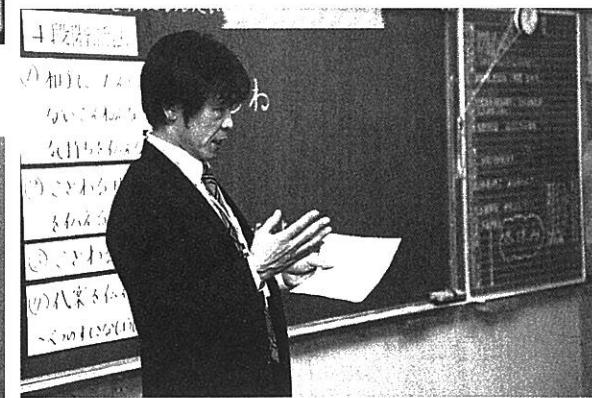


仙台自分づくり教育

たく生き 授業プラン集



たく生きのたくましく生きるためのプログラム、実践事例

仙台市教育委員会 学びの連携推進室

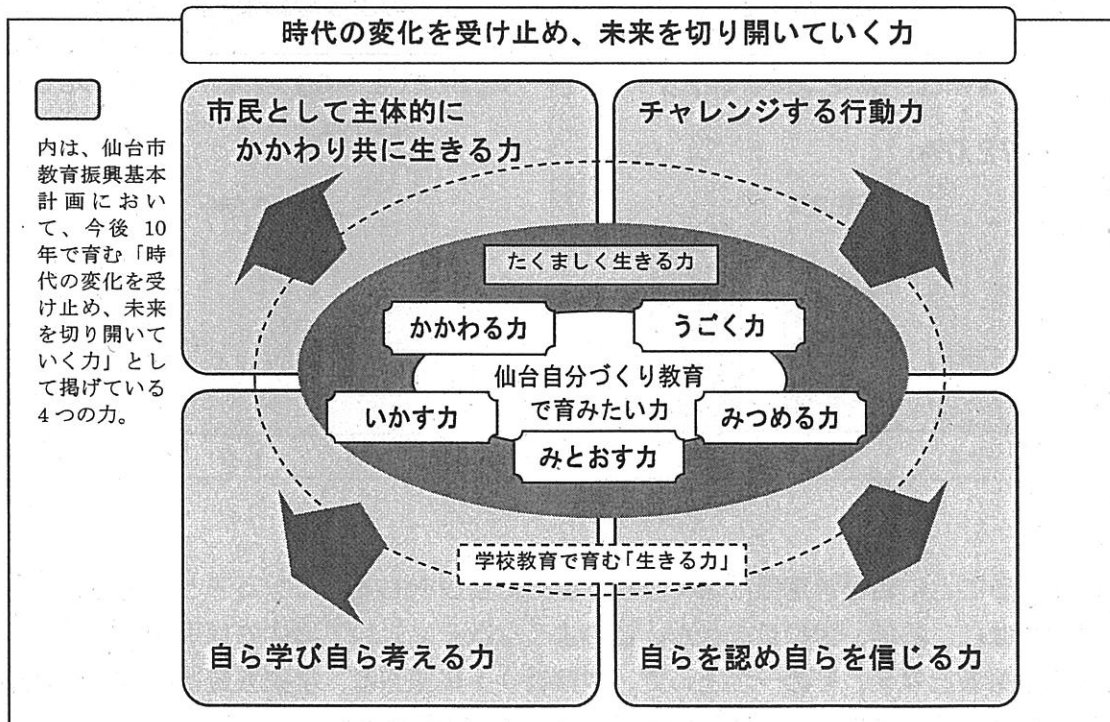
<http://www-in.sendai-c.ed.jp/advance/>

1 「たくましく生きる力」とはどのような力なのか？

子どもたちの将来の「社会的な自立」を内面から支える力を「たくましく生きる力」と定義し、外部有識者を交えた検討委員会で議論してきたところ、「見方・考え方」「人間関係形成力」「心・態度」などにかかわる能力が重要であるという結論が出ました。その具体内容についてさらに議論を深め、「たくましく生きる力」が教育課程上のどのような位置にあるのかを検討したところ、同じく「社会的な自立」に焦点を当てた「仙台自分づくり教育」で育む5つの力と同義であるという結論を得ることができました。

このような経過を踏まえ、「仙台自分づくり教育」で育む5つの力の総称を「たくましく生きる力」としています。

なお、「仙台市教育振興基本計画」では、「時代の変化を受け止め、未来を切り開いていく力」を確かなものにするため、今後10年で「自らを認め信じる力」「自ら学び自ら考える力」「チャレンジする行動力」「市民として主体的にかかわり共に生きる力」の4つの力を育むことを目指しております。「たくましく生きる力」の育成は、この4つの力に迫るための、学校教育における重要な取組の一つとなります。



「仙台市が今後10年でめざす力」と「たくましく生きる力」、「仙台自分づくり教育で育みたい力」の関係図

2 なぜ「たくましく生きる力育成プログラム」が必要なのか

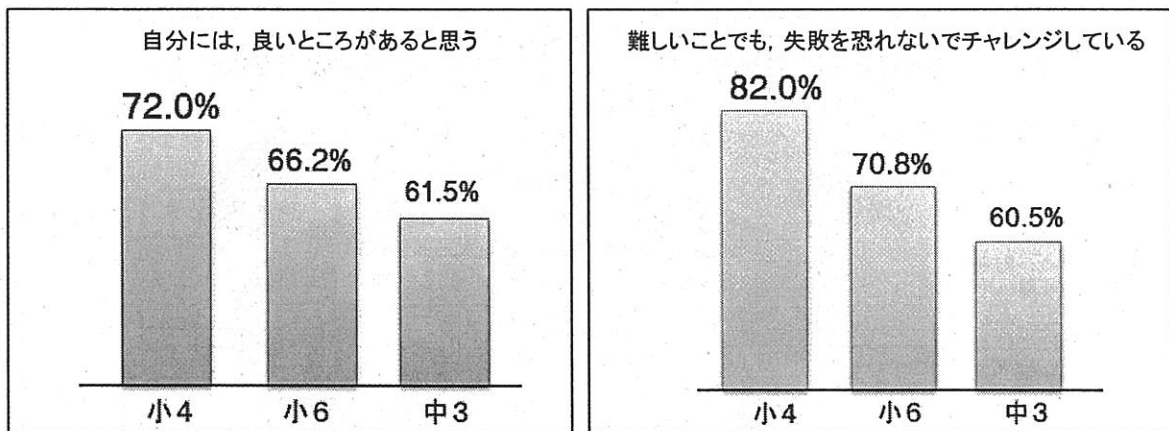
子どもたちが変化の激しい社会をたくましく生きるためには、「幅広い見方・考え方」「人間関係を形成する力」「自分及び他者と向き合う心・態度」の基本となる知恵や態度を身に付けておくことが必要となります。

しかし、社会体験の不足などから、そのような知恵や態度を自然に身に付けることが難しくなっており、その結果、学校での学びが浸透しにくくなっているという現状が指摘されています。

このような傾向は本市においても同様であり、学校ヒアリングや自分づくり教育担当者研修会での中学校区ごとの情報交換、たくましく生きる力育成プログラム検討委員会などから、以下のような子どもの姿が報告されています。

- ・ 自己肯定感が低い。
- ・ 対人関係能力やコミュニケーション能力が低下している。
- ・ 一つの正解のみに効率的にたどり着こうとする思考が強い。
- ・ 正解を言えないとダメと思いつ込み、間違いや他人との違いを恐れる。
- ・ 失敗を恐れずにチャレンジすることや、失敗をリカバリーすることができない。
- ・ 問題行動の現れ方が多様化しており、問題行動そのものに自覚のない子も多い。

平成 26 年度実施の仙台市生活・学習状況調査では、以下のような結果も見られました。



学年を追うごとに自己肯定感が低くなり、自分に自信をもてなくなる子どもたちが増えていく様子はここ数年、変わりません。このような状況に対して具体的な手立てを講じていく必要があると考え、その一つとして、学識者や企業関係者、学校教員と市教委が協働し、発達段階に応じて意図的・計画的に、社会的自立の素地を養っていく「仙台自分づくり教育の授業プラン」の開発に取り組んできました。それが「たくましく生きる力育成プログラム」です。

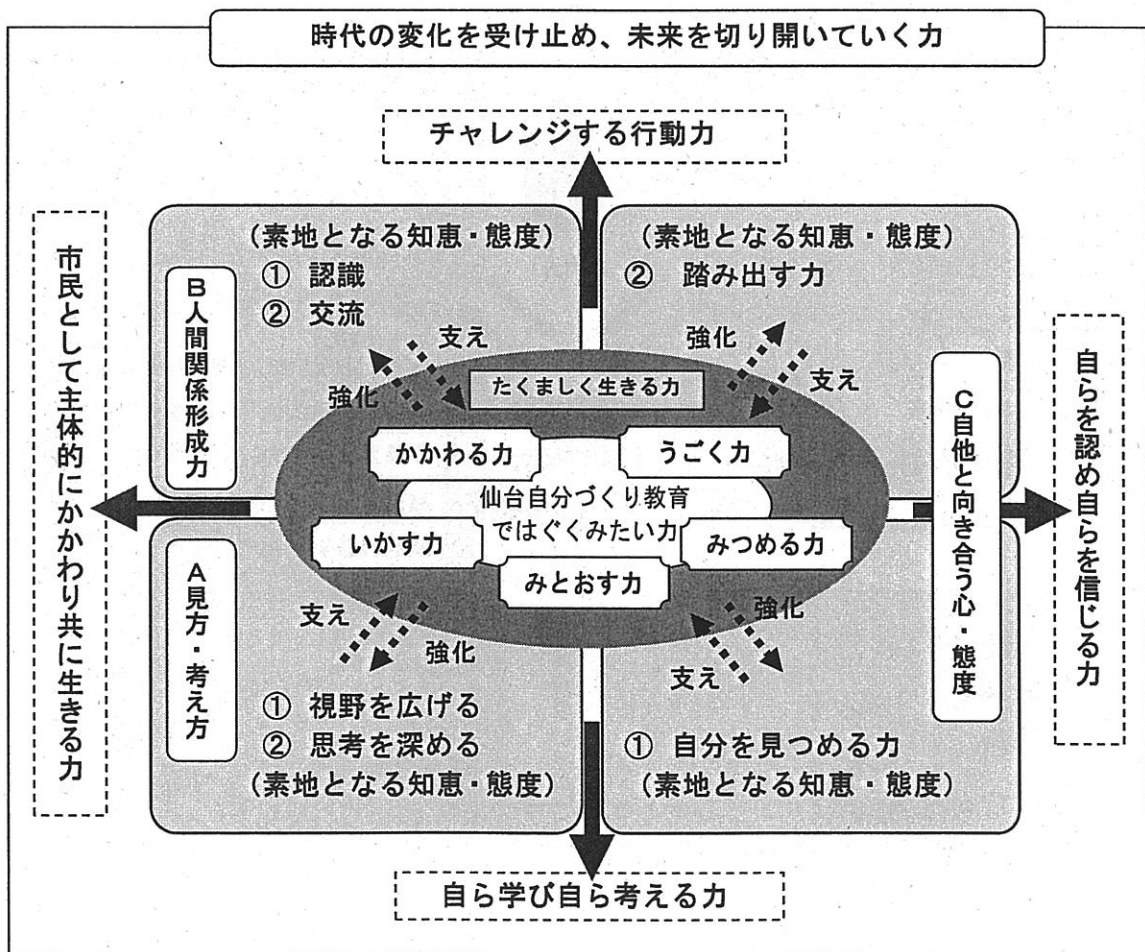
3 たくましく生きる力育成プログラムで育む力

(1) たくましく生きる力育成プログラムとは何か

「たくましく生きる力」(自分づくり教育でめざす 5 つの力)の素地となる知恵・態度(「見方・考え方」「人間関係形成力」「心・態度」)を育成するための学習プログラムです。

(2) プログラムの基本構想

「たくましく生きる力」には、素地となる「知恵・態度」があり、それらが「たくましく生きる力」を支える基盤となります。そうした「知恵・態度」は、「たくましく生きる力」を身に付けていく過程で強化され、全体として「心の基盤」づくりや「一歩踏み出す態度」の形成、「じっくり見つめる」力、「よりよく生きる」ための学びの獲得につながっていくものとなります。



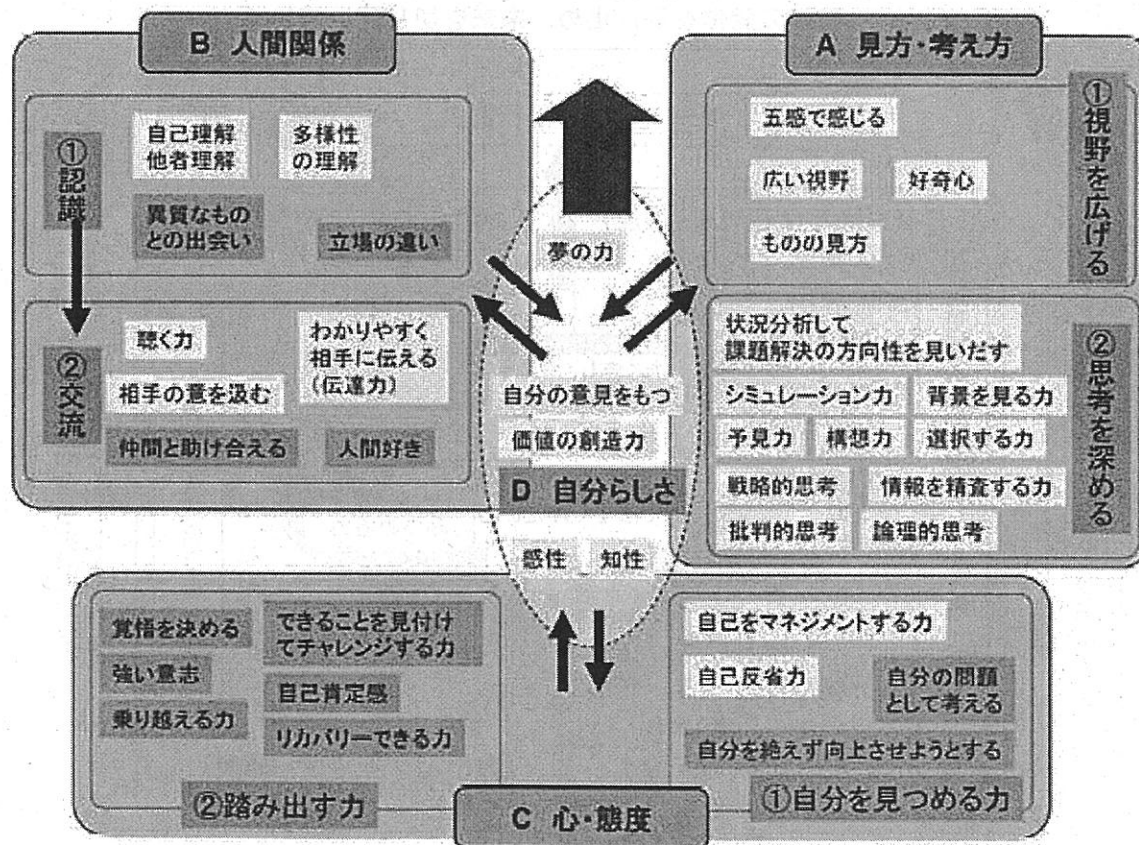
「たくましく生きる力」とその素地となる「知恵・態度」の関係図

(3) たくましく生きる力育成プログラムで育てる「知恵・態度」とは何か

「知恵」とは、当面の問題を解決するだけでなく、「よりよく生きていく」ために必要となる知識の使い方や（応用する）技能を指します。

ここでいう知識とは、教科の内容としての知識ではなく、新しいものを追究したり、分からないものを解決したりしながら「よりよく生きていく」ために必要となる知識です。また、獲得した知恵を実践に移そうとする「態度」も含めて「知恵・態度」と呼びます。

「知恵・態度」は、大きく「幅広い見方・考え方」「人間関係を形成する力」「心・態度」に分類でき、その中には下図のようなキーワードで表される「知恵・態度」の具体があるのではないかとということが、検討の過程で明らかになってきました。「たくましく生きる力」育成プログラムでめざす子どもたちに身に付けさせたい「知恵・態度」については、次頁の資料をご覧ください。



「たくましく生きる力」育成プログラム検討委員会で整理した「知恵・態度」

(資料)「たくましく生きる力育成プログラム」でめざす子どもたちに身に付けさせたい「知恵・態度」

